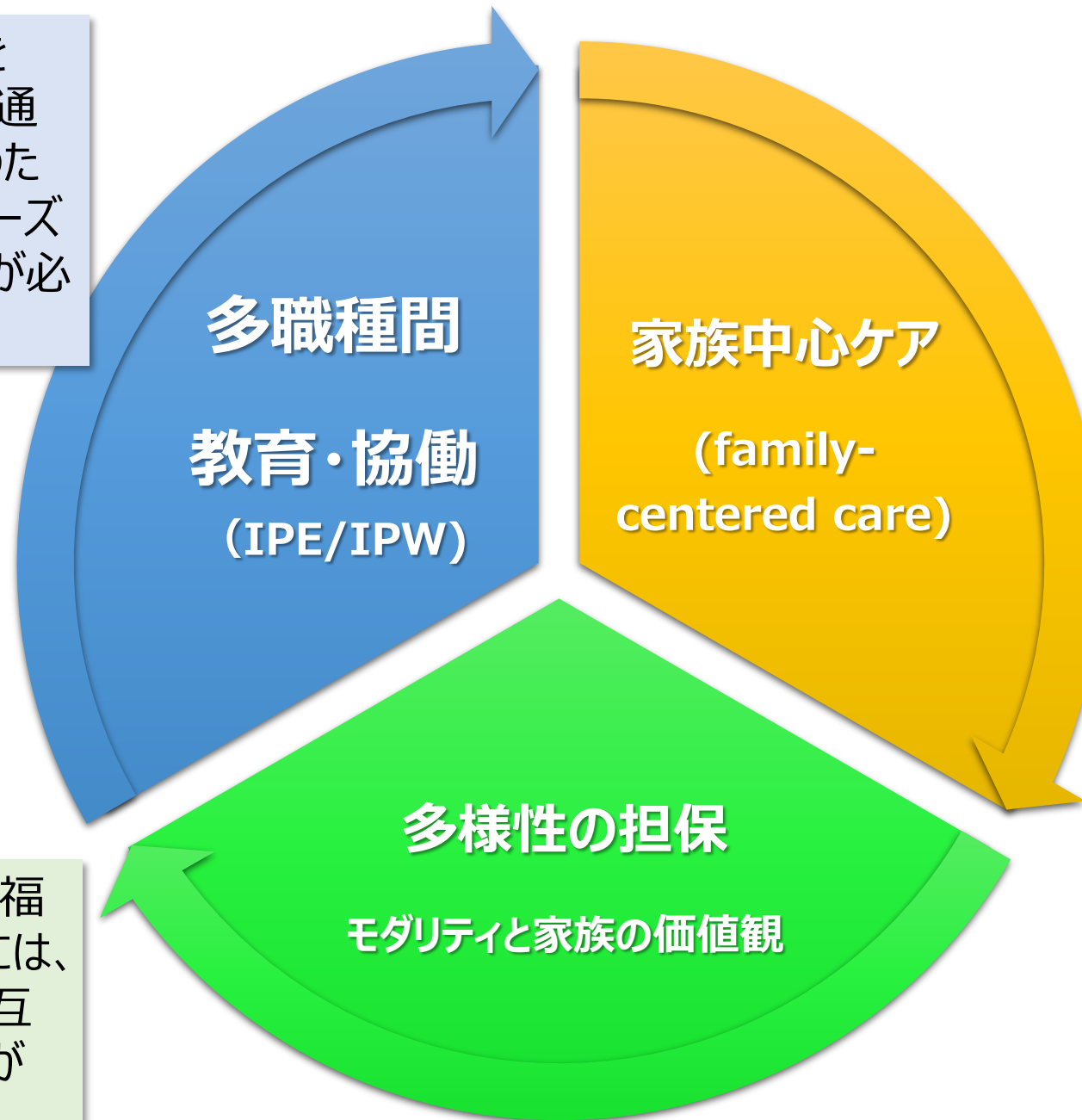


多くの専門家が同じ目的を持って協力するためには共通のゴールが必要であり、そのためにはそれぞれの家族のニーズを中心に考えるという態度が必要になる。



家族中心ケアとして、家族が大切にする価値観を中心に置くためには、多様性のある福祉サービスの提供体制が必要になる。

地域における多様性のある福祉サービスを提供するためには、様々な立場の専門家がお互いに教えあい、協働する事が不可欠である。

専門職連携教育・多職種連携

InterProfessional Education

InterProfessional Work

(IPE/IPW)

- 専門職連携教育（IPE：InterProfessional (collaborative) Education）：複数の領域の専門職者が連携およびケアの質を改善するために、同じ場所でともに学び、お互いで学び合いながら、お互いのことを学ぶこと
- 多職種連携（IPW：Interprofessional Work）：複数の領域の専門職者が各々の技術と役割をもとに、共通の目標を目指す協働のこと
- IPWは複数の領域の専門職者が各々の技術と役割を活かして共通の目標を目指す連携協働であり、IPEはIPWを機能させるために行われる専門職者への教育である。

IPE/IPW

価値観と倫理観

- 多職種間で異なる価値観のすりあわせ

コラボレーション実践における役割の明確化

- 各機関・職種で異なる役割の理解と分業

多職種コミュニケーション

- 適切なコミュニケーションとチームとしてのリーダーシップ

チームワークとチームによるケア

- 単なる「勉強会」から、実効性のある「協働」の仕組みへの変化

地方自治体に求められること

- ここで厚生労働省令和2年度調査研究の結果と、文部科学省平成30年度の調査研究の結果を並記します。
 - 地方自治体には中心的に働く部署が無く、リーダーシップが事実上存在しない
 - 連絡会議的な場面が必要とされているという認識
 - 文部科学省のデータでは、実際に自治体との連携が行われている施設は半分ほどであり、残りは連携未実施であった

自治体でのIPE/IPWのために必要なこと

担当部局を明確にすること

連携の足がかりとなる**プラットフォーム**を準備すること

- IPEはしばしばIPWの土台となることが多い。

実効性についての**モニタリング**を行う事

協働に関する**トラッキング**を行う事

- モニタリングとトラッキングは、地方自治体でないと行い得ない業務
- モニタリングでは、協働の状態について自治体が把握する。
- トラッキングでは、各事例の経過について追跡し、関係者が一同に介してその改善策を考える。

IPE/IPWで想定される参加者

- 耳鼻咽喉科医師・言語聴覚士
 - 小児科、小児神経科、・児童精神科（発達障害の合併など）、眼科（盲聾二重障害など）
 - 言語聴覚士には、サブスペシャリティとして聴覚系、言語系、発達系等
 - 理学療法士・作業療法士の参加が必要な場合があり得る。（上肢の障害など）
- 教育職：特別支援学校教員・難聴学級教員・通常学級教員・教員養成大学教官
- 聴覚補償・情報保障の専門家
 - 認定補聴器技能者等、手話通訳士、要約筆記者など
- サービスコーディネーター
 - 保健師・相談支援員・社会福祉士・教育相談担当教諭
- ロールモデルないしはメンターとしての成人聾者・聴覚障害者、聴覚障害児支援団体（親の会など）の代弁者等